

こめる

2026年 6月号

発行日:2026年6月

発行:佐渡農業協同組合 担当:JA 佐渡 営農振興部 販売企画課
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

マイクロプラスチックを使用していない 資材による田植え開始!!

JA佐渡では2022年度からマイクロプラスチック流出防止に取り組んでいます。令和8年産米よりマイクロプラスチックを使用していない「ノンコート有機50BB」の販売が開始され、今年は39名で109ha(全体の2%)が取り組まれる予定です。この資材を施用する生産者に取り入れた理由を聞いたところ、「この資材は通常の一発肥料より10aあたり700円くらい経費が上がるが、佐渡は海に囲まれている島なのでプラスチック流出防止に取り組むことが重要だと思い、施用することを決意しました」とおっしゃっていました。



ノンコート有機50BBを使用しながらの田植え



ノンコート有機50BBの肥料

田んぼアート10周年記念田植え始まる!!

5月上旬に、朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会主催の「田んぼアート田植え体験と伝統芸能体験イベント」が開催されました。当日はコープデリにいがたの組合員家族と役員、佐渡Kids生きもの調査隊、佐渡市・JA佐渡役員など約80名が参加しました。

この田んぼアートは朱鷺と暮らす郷米が10周年を迎える2017年より始まったもので、今年は記念すべき10回目になります。今年の田んぼアートのデザインは石川県能登地域においてトキが放鳥され、本州で初めて羽ばたくことから「羽ばたく」がテーマになりました。このデザインは123年の歴史に幕を閉じた行谷小学校の生徒の皆さんが考えたものです。

当日は強風で肌寒いなかの田植えとなったものの、1時間あまりで約30aの大きさの田んぼの田植えが終えられました。田植え後には田んぼ横にある江(え)で生きもの調査も行われ、30分程度の調査で16種類の生きものが見つかりました。午後からは世界農業遺産(GIAHS)15周年を記念して伝統芸能「鬼太鼓」や「能」の体験プログラムも行われました。

参加者からは「今日植えたものを7月に見られるのを楽しみにしている」「能舞台上がれたり、能面を被るなど貴重な体験ができて有意義だった」といった声が聞かれました。



田んぼアートのデザイン完成イメージ図



田んぼアートのデザインに合わせて種類ごとの苗が植えられている様子



生きものを育む農法の「江」で生きもの調査が行われている様子



能面を実際に被る体験をされている様子

